

# こどもは「かぜ」の子——太陽病期のかぜの漢方治療

池野 一秀

長野松代総合病院小児科部長（長野市）

### ●「葛根湯が効かない」

私が初めて飲んだ漢方薬は、葛根湯かっこんとうでした。大学生時代にかぜをこじらせて何日も寝込んでいた私に、心配した同級生が「よく効く薬だから」と差し入れしてくれたのです。そして、「葛根湯が著効し全快した私は、それ以来漢方薬の大ファンになったのです」……ということができればよかったです。実際は全く逆だったのです。まずい薬を我慢して飲んだのに、かぜは一向によくなり、むしろ食欲が落ち、さらに衰弱した感じがしました。そして、「漢方薬は効かない」という強い先入観をもったのです。そんな固い信念が覆るまで10年くらいかかったのでしょうか。その転機も、やはりかぜのときでした。

珍しくインフルエンザにかかった私は、高熱と頭痛、全身倦怠感が強く、とても仕事ができる状態ではありませんでした。当時、抗インフルエンザウイルス薬は発売前だったので、藁にもすがる思いで漢方薬を飲みました。たまたま、その秋、地元の医師会の勉強会に松田邦夫先生がみえて、かぜの漢方治療のお話をされていました。そのときの「インフルエンザに麻黄湯まおうとう」というフレーズだけは不思議に覚えていたのです。ところが、当時働いていた総合病院には、麻黄湯の在庫はなく、似た名前の麻黄附子細辛湯まおうぶしさいしんとうが目にとまりました。切羽詰まっていた私は、とりあえず麻黄附子細辛湯を飲んで、少し寝てみました。すると、高熱のため寒くて寒くてたまらなかった体が気持ちよく温まり、汗とともにあれほどつらかった熱が引いていったので

す。そして、翌日には、何事もなかったかのように、日常生活に復帰しました。このときの「漢方薬って本当に効くんだ」という驚きが、15年以上経った今でも漢方の勉強を続ける原動力になっています。

### ●葛根湯の効かせ方

では、なぜ葛根湯が全く効かず、麻黄附子細辛湯は劇的に効いたのでしょうか。当たり前ですが、「証」と「病位」が合っていたかどうかの差です。葛根湯はご存じのように、中間からやや実証の人のかぜの初期、つまり太陽病期の処方です。私が葛根湯をもらったのは、かぜの発症から数日経っており、今思えば少陽病期だったのでしょう。賢明な読者の皆様なら、小柴胡湯しょうことうや柴胡桂枝湯さいこけいしとうなどの柴胡剤が適応だとお考えになるでしょう。葛根湯は、かぜのごく初期、太陽病期の始まりの熱が出るか出ないかのタイミングで投与しないと十分な効果が味わえません。かぜを引いて何日も熱が下がらないから病院に来たという患者さんでは、すでに不適格です。医師やその関係者が普段から常備しておいて、「かぜを引いたかな、これから熱が上がるかな」というタイミングで葛根湯を飲むと、たちどころに症状が治まるのです。汗が出ず寒気がするときに葛根湯を内服すると、体が温まって発汗を促し、熱が下がります。体の表面温度を測定するサーモグラフィを用いた矢久保修嗣先生らの研究によると、葛根湯内服後は交感神経が刺激されて、顔面では15分後、頸部では2時間後までに最高温に達することが確かめられています。

感染症にかかると生体はインターフェロンを出し、これが免疫を刺激する IL-1 を増やし、さらにいくつかの過程を経て最終的にプロスタグランジンが体温を上昇させます。西洋薬の解熱剤は、この最後のプロスタグランジンの合成を阻害し熱を下げます。一方、IL-1 は熱を上げるだけでなく、呼吸上皮を障害し、肺炎を進行させるという有害作用をもたらします。解熱剤は、熱は下げても肺炎の予防作用はありません。しかし、葛根湯は、最初のインターフェロン上昇から IL-1 を誘導する過程を妨害するので、不要な熱が続くのも防ぎますし、肺炎への進行も抑えるのです (図)。

### ●受験生や医師のかぜに麻黄附子細辛湯

次に、麻黄附子細辛湯の証について考えてみます。本来、老人など体力の弱った人の初期のかぜの薬です。太陽病期の投与はいいとして、麻黄附子細辛湯が効いた当時 30 代前半だった私は老人なみの体力だったのでしょうか。臨床上の実感としては、麻黄附子細辛湯は虚証から中間証まで、守備範囲の広い処方だと思います。実際、本間行彦先生は、かぜの大学生に証を選ばず麻黄附子細辛湯を投与して、総合感冒薬より優れた解熱効果を報告しています。日常診療において、普段健康な人でも無理を重ねて疲れが溜り、その挙句にかぜを引いたときには、葛根湯や麻黄湯より麻黄附子細辛湯が著効するケースをしばしば経験します。具体

的な例では、受験生が勉強を重ね、いよいよ明日試験だというとき、かぜに罹り高熱をきたすことがあります。このようなかわいそうな受験生には、迷わず麻黄附子細辛湯を処方してください。

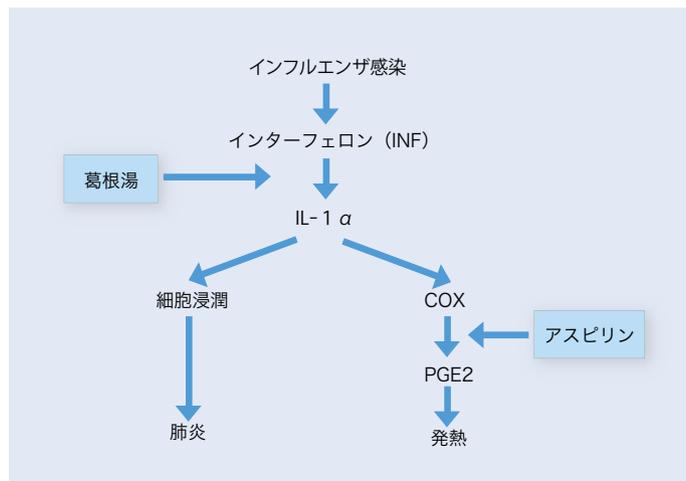
実例を紹介すると、中学 3 年生の真面目な女の子が、高校受験前日に 39 度の高熱で受診しました。その子は、「受験の日に熱があったら、もう試験に行けない、合格できない」とボロボロ涙を流していました。しかし、「その夜に麻黄附子細辛湯を飲んで早めに寝たら、翌朝は熱も下がり、問題もスラスラ解けて無事合格した」と後日ニコニコ顔で報告してくれました。麻黄にはエフェドリンが含まれ、かぜを早く治すだけでなく、意識を覚醒させるので、試験には有利に働くのかもしれませんが。

また、我々医師の場合も受験生に劣らず無理をしてしまうことがあります。思い返せば、当時の私はかぜを引く前、初めての海外学会発表の準備で、全く余裕のない生活を送っていたのです。千葉大学の巽浩一郎先生が、「医師は減多にかぜを引かない。かぜを引くのは、無理を重ねて体が弱り切ったときだから、麻黄附子細辛湯が効く」とお話されていたのをお聞きしたことがあります。

### ●麻黄湯を使うときの注意点

最後に麻黄湯のインフルエンザへの効果について触れておきます。小児のインフルエンザに対する麻黄湯の有効性に関しては、抗ウイルス剤と同等であるという素晴らしい報告を、黒木春郎先生、窪智宏先生がされています。ただし、抗ウイルス剤と麻黄湯を併用しても、有害事象を起こすという報告は私の知る限りないので、両者を併用するのが私の治療スタイルです。小児のインフルエンザでは、一定の確率で重症肺炎やインフルエンザ脳症の合併が起こります。こうした合併症の予防に抗ウイルス剤が有効であるというエビデンスはないのですが、抗ウイルス剤を投与することが、合併症の発症前からできる限りの手立ては尽くしたという姿勢を示す意味はあります。運悪く合

図 葛根湯とアスピリンの作用部位



併症を起こしたときの免罪符として、抗ウイルス剤を併用するといったら、お叱りを受けるでしょうか。

一方、麻黄湯は効果が強い分、副作用にも注意が必要です。特に強い発汗作用があるので、解熱後もダラダラと投与を続けると簡単に脱水に陥ります。大久保愼一先生は、麻黄湯の間違った投与について、3点を強く戒めています。(表)

インフルエンザの流行期に夜間救急を開いていると、昼間別の医療機関を受診してインフルエンザの検査も陽性で、抗インフルエンザ薬も処方されているのに、「熱が下がらないから」と訴える患者さんが結構な割合で訪れます。「抗インフルエンザ薬で解熱するまで、平均1日半かかるんですよ!」とお説教するのも悪くはありませんが、私は「明日には熱が下がる漢方薬があるので、処方しましょうか?」と同意を得て、麻黄湯または麻黄附子細辛湯を投与します。早ければ翌朝、遅くとも翌日の午後にはたいてい熱が下がっています。ただし、この場合、漢方薬が効いたのか、遅ればせながら抗ウイルス薬が効いたのか判定は難しいところです。

以上のように太陽病期の麻黄剤投与は、「できるだけ早く」「できたら多目に」が原則です。成人では、2～4時間毎に反復投与をするという方法もあります。しかし、小児の場合、麻黄に含まれるエフェドリンのためか、不眠になったり、異様に興奮したりすることも実際にあります。特に、インフルエンザ罹患時には熱譫妄やインフルエンザ脳症の症状と麻黄の副作用が紛らわしいので、麻黄剤の夜間の過量投与は勧めないことにしています。通常量で使っても、期待以上の効果は得られるはずですから。

我々小児科医は、滅多にかぜを引きませんが、子どもたちはたびたびかぜを引きます。その違いは、大人が以前の感染による獲得免疫を持っているのに対し

て、子どもたちは抗体が少なく自然免疫系を中心にかぜに対処しているからです。どんな未知のウイルス感染に対しても、体は自然免疫系という防御システムが作動して治そうとします。葛根湯を始めとする麻黄剤はサイトカインを調節することによって、この自然免疫系の発動を促進し、治った後の過剰な炎症による合併症を抑える作用があります。こうした機序から、子どもたちのかぜに対しては、大人以上に漢方薬が恩恵をもたらすと考えます。

表 麻黄湯の誤った処方

- ①太陽病期の全例に処方
- ②どの病期にも処方
- ③長期間(3～7日間)の処方



イラスト・池野一秀